

科目名	国際法特殊研究	担当者	アンドウ 安藤 タカヨ 貴世	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	国際法を通して現代の国際社会が抱える諸問題を検討し、自らの言葉で論理的に議論を展開することを目的とする。国際法特殊研究では、国際裁判、海洋・領土、国際社会における個人、国際機構などそれぞれのテーマに対し、受講者が自らの関心に沿って個別具体的な論点を設定し、研究を進めることにより、国際社会の諸問題に対する国際法の役割・意義について理解することを目指す。		
到達目標	<p>1) 現代の国際社会における諸問題について、国際法の視点から論理的に考え、議論する。</p> <p>2) 国際紛争の平和的解決における国際法の役割について、特に国際裁判の意義という点から理解する。</p> <p>3) 国際安全保障、国際社会における個人、国際機構などをめぐる現代的な諸問題について、国際法を手掛かりに検討を行う。</p>		
学修方法	基本教材、参考図書のほかに、必要に応じて関連図書・文献などを参照しつつ、レポート課題に沿って各レポートを作成する。レポート作成に際しては、オンラインを通じた教員からの指導、コメントや双方向的な質疑応答に基づいて修正を重ね、最終的なレポートを完成させる。また必要に応じて対面指導も取り入れ、レポートの作成、履修生の学修を補完する。		
スケジュール	<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題1については草稿を7月末、レポート課題2については草稿を8月末を目安に提出すること。 ・その間、取り上げるテーマ、レポート作成に関する質問・疑問に対しては適宜オンライン等を通じ指導、対応する。 ・最終稿の提出は、レポート課題1、2ともに9月下旬とする。 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題1については草稿を11月中旬、レポート課題2については草稿を12月中旬を目安に提出すること。 ・その間、取り上げるテーマ、レポート作成に関する質問・疑問に対しては適宜オンライン等を通じ指導、対応する。 ・最終稿の提出は、レポート課題1、2ともに1月中旬（課題提出締切日）とする。 		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	<ul style="list-style-type: none"> ・基本教材、参考図書、その他の文献を用い、課題に沿った十分な検討がなされているか。 ・レポートの構成、論理展開が明確か。 ・脚注、参考文献リスト等レポートの体裁が整っているか。
	平常評価	20%	教員からのコメントに対する対応、質疑応答など、レポートの最終稿提出までの取り組みを評価する。
履修者への要望	<p>基本教材の理解を前提としつつ、参考図書やそれ以外の関連文献をリサーチしたうえで、テーマ設定、レポート作成を行うことが求められる。</p> <p>レポート作成にあたっては、単に基本教材等をまとめるだけではなく、国際社会における現代的な問題に関心を寄せ、それらの問題について、国際法をとおり論理的に議論を展開することを心掛けてほしい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 浅田正彦編著 教材名： 『国際法（第3版）』（東信堂，2016年）ISBN:978-4798913353 2,900円+税
	国際法のスタンダードなテキストであり，特に具体的な事例および日本との係わりについて充実した記述がなされている。
参考図書	小寺彰ほか『講義国際法（第2版）』（有斐閣，2010年）ISBN:978-4641046535 4,300円+税 柳原正治ほか『プラクティス国際法講義（第2版）』（信山社，2013年）ISBN:978-4797224085 3,800円+税 岩沢雄司『国際条約集』（有斐閣，2017年）ISBN:978-4641001503 2,800円+税 （なお、『国際条約集』は最新版のものでなくとも構わない。） 小寺彰ほか『国際法判例百選（第2版）』（有斐閣，2011年）ISBN:978-4641115040 2,476円+税
履修上のポイント	それぞれのレポート課題の留意点に沿って，基本教材のほかにも，参考図書や，必要に応じて関連の文献なども参照しつつレポートをまとめること。特にレポート2において取り上げるテーマについては，現代的な問題・課題を念頭に置きつつ，担当教員とじゅうぶんに相談したうえで決定すること。
レポート課題 1	国際紛争の平和的解決の方法について整理したうえで，国際裁判が果たす役割について論じなさい（4,000～5,000字程度）。 留意点： 基本教材第17章などを参照しつつ，日本が関わった裁判事例などについても留意したうえで論ずること。
レポート課題 2	国際安全保障をめぐる現代の問題について，テーマを1つ設定し国際法の観点から論じなさい（4,000～5,000字程度）。 留意点： 基本教材第18章などを参照しつつ，近年の日本をめぐる安全保障に関する諸問題も念頭に置き，担当教員と相談のうえテーマを設定し，レポート課題に取り組むこと。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 浅田正彦編著 教材名： 『国際法（第3版）』（東信堂，2016年）ISBN:978-4798913353 2,900円+税
	国際法のスタンダードなテキストであり，特に具体的な事例および日本との係わりについて充実した記述がなされている。
参考図書	小寺彰ほか『講義国際法（第2版）』（有斐閣，2010年）ISBN:978-4641046535 4,300円+税 柳原正治ほか『プラクティス国際法講義（第2版）』（信山社，2013年）ISBN:978-4797224085 3,800円+税 岩沢雄司『国際条約集』（有斐閣，2017年）ISBN:978-4641001503 2,800円+税 （なお、『国際条約集』は最新版のものでなくとも構わない。） 小寺彰ほか『国際法判例百選（第2版）』（有斐閣，2011年）ISBN:978-4641115040 2,476円+税
履修上のポイント	それぞれのレポート課題の留意点に沿って，基本教材のほかにも，参考図書や，必要に応じて関連の文献なども参照しつつレポートをまとめること。特にレポート1，2ともに，取り上げるテーマについては，現代的な問題・課題を念頭に置きつつ，担当教員とじゅうぶんに相談したうえで決定すること。
レポート課題 1	国際人権法または国際刑事法分野のいずれかから，現代の国際社会における問題を取り上げテーマを設定し，個人の国際法主体性について論じなさい（4,000～5,000字程度）。 留意点： 基本教材第11～13章などを参照しつつ，どのような論点から個人の国際法主体性について論ずるか担当教員と相談のうえ，レポート課題に取り組むこと。
レポート課題 2	国際機構の歴史的展開について整理したうえで，国際機構を1つ取り上げ，当該機構が抱える現代的課題について論じなさい（4,000～5,000字程度）。 留意点： 基本教材第7章などを参照しつつ，取り上げる国際機構について担当教員と相談のうえ，レポート課題に取り組むこと。